

25 説教者トレーニングセミナー総括

日本ホーリネス教団 坂戸キリスト教会牧師 郷家 一二三
牧師：25年 説教塾：1991年から24年 セミナー参加：20回以上

セミナー参加経験

日野・鎌倉・吉祥寺・名古屋・富士裾野でのセミナーに、毎年1-2回出席してきた。「説教黙想集成」1-3巻に収録された説教黙想のほとんどを、セミナーで学んできた。

説教者トレーニングセミナーの総括

毎回のセミナーでは、取り上げられた聖書テキストを学び、教会で語る説教作成までを丁寧にとどめて行く。今回は4日目と5日目に7名が説教を語った。その後に説教分析の方法を用いて説教批評が行われ、建徳的な批評と改善提案などが話された。

今回のテキストの主題は「主の招き」である。だから説教はテキストの解説では終わらない。主の招きを説教するなら、招きに応答して立ち上がり従う者が起される説教をめざす。この説教の言葉で聴き手に何が届き何が届かないのか。説教を会衆はどう聞くだらうか。30-40分の説教について、1時間半前後の丁寧な検討を行った。

説教塾が起こされた目的は、説教が改革されることによって日本の教会の伝道が進むことである。説教が神の言葉の説教になるために、説教をどう変える必要があるのか。それを教団教派を越えて真剣に学び合った。今の教会の説教は、弱い者に同伴して下さるイエスさまを語るが、わたしに従えと招く主イエスに従う説教を語らなくなっているのではないか。教勢の低下と洗礼者数の減少の原因は、教会の説教が主イエスの招きに立ち上がって従う説教になるにはどうするのか。まさに格闘して、語るべき言葉を求め続けた5日間であった。

説教原稿を書き上げる夜は、ほとんどが徹夜に近くなる。すべてを説教に集中できるセミナーを体験することを何にたとえられようか。運動部の夏合宿の徹底した練習の苦しみを通過した選手は、秋からの成長が目覚しくなる。セミナーで訓練を受けると、その後の説教が全く変わることがある。その成長を人から言われ、自分自身でも確認できる時が、一番嬉しいときである。

25年の牧会生活を振り返って、説教塾との出会いはいくら感謝しても感謝しすぎることはないほどである。説教者であろうとする人にとっては、不可欠な学びであると思っている。